

挨拶

副会長

素利孝久



皆様、こんにちは。この度、副会長を拝命いたしました素利でございます。さきほど田中会長がお話しされたように、この日本知的財産協会は、過去からすばらしい活動・実績を残しており、それが日本の企業の真の競合力の源になっていると改めて知ることができました。その副会長の任を担うことに対して身の引き締まる思いでございます。

私は、マツダ株式会社において自動車の研究開発を行ってまいりました。マツダは規模は小さくてもお客様にとってなくてはならない One and Only のブランドを目指しています。そのためには一つ一つの技術の質を高めるとともに、それがお客様の「走る喜び」につながるような一体感（人馬一体）を目指してクルマトータルでの造り込みを行っています。

さて自動車などの製造業だけにとどまらず、どの分野でも同じでございますけれども、グローバルの非常に厳しい競争と、そしてさまざまなパートナーとの協調というのは、企業の成長にとって不可欠なものでございます。また、渡部先生がおっしゃったように、将来を見つめる目つきというのが非常に大事なことでございます。その中で、知的財産の活用のあり方、そして知的財産マネジメントのあり方というのはますます重要になってきていると考えます。

さらに先ほど田中会長がおっしゃいましたように、一企業のみならず、今後の日本の成長戦略においても、ますます、この知的財産の活用・支援というのは大事になってくると思います。このことを肝に銘じて、微力ではございますが、田中会長を支え、そして皆様とともにこの会をますます発展させていきたいと考えております。

よろしく願いいたします。